

事例12

災害事例を用いた職長教育で 危険予知能力を高め、ゼロ災を目指す

公共・民間マンションを中心に、常時20箇所ほどの現場を手がけている進和工業株式会社。現場で中心的な役割を担う職長の教育に力を入れ、能力向上に努める。また、出稼ぎ労働者や研修生の作業員宿舎を用意、快適な職場環境の整備に取り組んでいる。

進和工業株式会社・神奈川県

進和工業株式会社は、左官工事の専門会社であり、従業員数は約60人。

職長教育では災害事例で能力向上に努める

安全衛生管理は、年度ごとに安全衛生年間計画を作成し、これに基づいて着実に実施する。平成23年度は基本方針として、「社内及び作業所の安全衛生管理体制を確立し、ゼロ災害を達成する」と、「安全衛生教育及び健康診断の実施」の2つを掲げた。

重点施策は、「安全衛生管理体制の確立・強化」、「安全衛生教育の計画的実施」、「作業所における安全衛生活動の強化」、「健康診断の完全実施」、「年間行事」を選定。具体的な実施項目として、特に、管理者および職長会による作業所パトロールの実施、職長教育の実施、安全大会の実施に力を入れている。

安全パトロールは、災害防止協議会で実施するほか、店社としても、すべての現場で必ず月1～2回実施している。

職長教育として、毎月1回、災害事例を研究する安全教育を実施している。この安全教育では、

- ・アルミ製脚立（作業足場）から転落
- ・ミキサーの回転部に軍手を引っ張られてケガ

といった災害を例題として、その原因及び対策（脚立からの転落は、設置する場所が適切でないと不安定になるため、設置場所を十分確認する。特に、設備用の配管の穴などに



社長の挨拶(安全大会)



「睦会」会長の挨拶(安全大会)



特別教育の様子

安全大会で
教育用ビデオを上映し、
安全意識の向上を図る



出稼ぎ労働者や
中国からの研修生のために
作業員宿舎を完備

注意する。ミキサーへの巻き込まれを防止するには、回転部に防護カバーを設置する。)を考えさせるなど、災害事例をもとに原因と対策を考えさせることで、職長のレベルアップを図っている。また、災害事例のほか、KYシートを示して、どこに、どんな危険が潜んでいるかを探してもらうトレーニングなども実施している。KY活動の一環として何度も行っているため、職長の危険予知能力が向上し、今では適切にポイントをつかんで指摘するという。

さらに、同社では、職長教育だけでなく、特別教育や技能講習の実施にも力を入れ、作業員全員が、研削といし、建設用リフト高所作業車、巻き上げ機、酸欠、粉じんなど、左官作業で必要となる資格はほとんど取得済みである。

安全大会で教育ビデオを見せて安全意識を向上

また、安全大会では、安全衛生教育用のビデオも上映している。例えば、左官工事に特化した視聴覚教材としては、

- ①職長さんもかわらなきゃ 安全管理の主役
- ②若手職長とベテラン作業員 職長に期待される役割と安全心得
- ③レッドカードを避け！ ヒヤリ・ハットに学ぶ職場の安全
- ④安全ワイド情報局 木造家屋建築工事における左官作業の安全
- ⑤危険を招くマンネリ作業 左官作業員へのビデオアンケート

などがあり、いずれも、建設業労働災害防止協会（建災防）が企画・製作したものである。

同社では、これらのビデオ教材を活用して、職長及び作業員の安全意識の向上を図り、不安全行動の撲滅に努めている。

従業員を気遣う心配りで快適職場づくり

安全・健康・快適な職場となるよう、さまざまな配慮や指導も行っている。

職長や作業員は毎朝、本社横にある広い駐車場から、約20台の作業車で各現場へと向かう。社長は全員の「無事故・無災害」を祈って、現場へ向かう作業員らを送り出すのが日課となっている。夜は、戻ってくる作業員らの様子を確認する。仕事の進め方などで、万一、作業員同士でトラブルが生じたというような報告があれば、状況を把握し、場合によっては当事者の現場を変更するなどの措置も講じる。

同社では、東北地方などから出稼ぎに来る作業員のために、本社社屋の3～4階を宿舎としているほか、近隣に2棟の作業員宿舎を完備している。そのうちの1棟には、中国からの研修生も居住している。

研修生の受け入れを開始したのは、7～8年前。滞在期間は最長3年間で、現在5人が在籍している。